

「ベトナムの中秋節」

中川 良一

＜2023 年 9 月 29 日ベトナムの中秋節＞

中秋節は、旧暦の 8 月 15 日に行われる行事であり、中国唐時代（618 年～907 年）に習慣化され、その後ベトナムを含むアジア各国に広がったと言われています。農家の収穫が終わり、美しい月を見ながら、家族で幸せを祈る行事として定着したものです。

本年 2023 年は、9 月 29 日が旧暦 8 月 15 日で、ベトナムでも満月の下、中秋の名月の各種行事が行われました。日本では、満月の大きな月に見える黒い影は、ウサギが餅をついていると言われますが、ベトナムでは、月にクオイ（物語に出てくる人物）がガジュマルの木の下に座っている姿であると言われています。灯籠を各所にともしお祝いしますが、一説によると、これは月に行ってしまったクオイが、無事に地上に戻れるよう、明かりをともして道案内しているものであるとも言われています。

＜子供のお祝いの日として定着＞

中秋節が新暦では 9 月であり、ベトナムの新学期に重なります。故ホーチミン主席が毎年、新学期に子供たちに手紙を送っていたことから、現在ベトナムでは、6 月 1 日の国際こどもの日に加え、中秋節も「こどもの日」として定着しています。十五夜の夜、子供たちは鮮やかな灯籠を持って、村や町を回り、歌ったり、踊ったりします。これは「ルオク・デン」（灯籠踊り）と言います。近年では、各都市において灯籠イベントが開催され、本年は北部ベトナムのハナム省フリー市において、大型の灯籠によるパレードが行われました。

【ハナム省・フリー市の灯籠イベントの山車】



＜中秋節といえば月餅＞

中秋節で最も重要なのは、贈り物としての月餅です。上司や先生、そしてビジネス上でお世話になった方々に、月餅を持参してお礼に伺う習慣があり、旧正月と同様に重要な挨拶周りの期間です。

月餅には、小麦粉製と米粉製の二種類があります。

伝統的な中身は、蓮の種、砂糖漬けの豚脂、冬瓜、ライムの葉、中華ソーセージなどからなるミックス具材です。昔の月餅は、現在の月餅より 3～4 倍大きく、形は円型や鯉型などがありました。円型は満月、円満と充実を表し、鯉型は中国の神話「黄河中流の竜門と呼ばれる激流の滝を乗り越えた鯉が竜になる」から伝わり、立身出世や子供の学業成就の祈願を表しました。日本でもこどもの日に、鯉のぼりを揚げお祝いしますが、これと同様の意味を持っています。そして月餅を入れる箱は、おめでたい意味を表す赤色を用いたシンプルな箱が主流でした。

＜進化する月餅＞

現代では、若者の嗜好に合わせ、抹茶、コーヒー、チョコレートなどさまざまな具材が用いられています。食品メーカー、ホテルやレストラン等は毎年新しい具材を考案し、パッケージも工夫され、数多くの種類が販売される一方、伝統的な月餅を守るハノイの名店「Bao Phuong」などの老舗にも、月餅を買い求める人々が長い列を作っています。20 年前、月餅の価格は 1.5 万 VND（ベトナムドン）～3 万 VND/1 個（約 89 円～178 円 ※1 万 VND＝約 60 円）でしたが、現在では 6 万 VND～15 万 VND/1 個となり、贈答用月餅（1 箱に 2 個～6 個）は 30 万 VND～100 万 VND、そして高級品は 200 万 VND～600 万 VND までになります。高級月餅には、フカヒレやアワビなどの高級具材が用いられ、皮には金箔でデコレーションが施されたものも見られるようになりました。

今後も、ベトナムの発展とともに月餅も進化し、牡蠣月餅など新たな具材やスタイルが出てくるかもしれません。



【贈答用月餅】